

大明教育 実践の評価

◆ 2 学期の実践の評価を踏まえ、3 学期の課題を明らかにする。

◆ 小中連携及び学校・家庭・地域の連携・協働の場を探る。

<評価方法について>

◇ A－よい B－ふつう C－改善が必要 の3段階で評価

◇ 評価者の職種によっては評価できない項目もありますので、その場合は空欄にしないで斜め線を記入すること。

◇ 「気づいたこと」には、率直なご意見を記述してください。特にC評価については改善方法等を具体的に書くこと。

評価項目	評価		
	A	B	C
1. 教育目標について			
① 学校教育目標・指導重点は適切だったか。「自ら考え 活動する 心豊かな子ども」 (〇あいさつのできる〇すすんで学習できる〇落ちついて生活できる)	2 3	0	1
② 学校教育目標が学年学級経営や教科指導に具現化されているか。	2 0	3	0
③ 学校教育目標や経営方針が児童や父母に理解されるよう配慮されているか。	2 4	2	0

(考察)

- ・ 学校教育目標・指導重点は適切で、それらが学年学級経営や教科指導に具現化されていると考える教職員が1学期より増えた。また、学校教育目標や経営方針が児童・保護者に理解されるよう配慮されているという設問は、1学期より評価が高い。これは、1学期の反省を踏まえて改善点を実行した結果だと考える。

(改善点)

- ・ 3学期、学校教育目標や指導重点がさらに児童や保護者に浸透するように毎日の授業、全校集会、授業参観、各種行事を工夫していく。また、学校便り、学年通信等で保護者に伝えていくようにしていく。

評価項目	評価		
	A	B	C
2. 経営・組織			
① 学校運営に関する連絡・調整はスムーズか。	2 2	1	1
② 職員会議は学校運営に適切に機能しているか。	2 0	3	0
③ 学年打ち合わせが十分できているか。	1 9	4	0
④ 研究主題は、学校課題に合った適切な内容であったか。	2 4	0	0

(意見) 一人一実践は、それぞれの先生方の実践が見られ勉強になった。

- ・ 管理職を中心に連絡事項を伝える工夫をしてきていた。放送・机に紙を配る提示など。

(考察)

- ・ 学校運営に関しての連絡・調整や職員会議が適切に機能しているかという問いに対して、改善点を掲げ実行し

た結果、前期に比べ大幅に改善された。また、学年の打ち合わせが十分できているかについても、1学期と比べるとA評価が増えている。

- ・研究主題は本校の課題に適切なものであると考えている教職員が全員である。

(改善点) 職員会議や学年打ち合わせが適切に行えるように、引き続き日程・時間の管理を行っていく。

評価項目	評価		
	A	B	C
3. 教育課程 (1) 全般			
① 教育課程に本校の特色は生かされているか。	19	5	0
(2) 各教科・総合的な学習の時間			
② 教科指導は、教材研究・事前の準備等を行い、わかる・楽しい授業に心がけたか。	17	4	0
③ 創意工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てることができたか。	12	8	0
④ 各教科の授業時数は確保できているか。	20	1	1
(3) 道徳			
⑤ 教科や他領域との関連に考慮がはらわれているか。	12	8	0
⑥ 道徳的実践・道徳性などが高められていると思うか。	10	11	0
(4) 特別活動(学級活動・児童会活動)			
⑦ 学級活動は、自主的・自発的に運営されたか	12	8	1
⑧ 児童会活動は、自主的・自発的に運営されたか。	19	4	0
(5) 学校行事			
⑨ 学校行事は適切に計画的に実施されているか。	21	3	0
⑩ 学校行事は、学校生活に活力を与えるよう計画運営されているか。	20	4	0

(意見) 文化発表会の1週間後の立会演説会だったので取り組み期間が重なり大変だった。あいさつ活動も入り、6年の担任が毎朝立っていた。行事が重ならないようにしていくことと、全ての職員で分担していくことが望ましいと思う。

(考察)

- ・学校行事は適切に計画・運営されていると考える教職員は多い。また、教育課程に本校の特色が生かされており、おおむね授業時数も確保できていると考えられる。しかし意見にあるように取り組み期間が重複してしまう期間があり一部の教員の負担が大きくなってしまっていた。全職員で分担することを重視したい。
- ・教科指導については、どの項目もA評価が増えている。しかし、子供達が自ら学ぶ意欲と態度を育てることについてはB評価が多い。
- ・道徳についても前期より評価がよくなっている。道徳と他の教科・領域の関連を考慮して、計画実行に着手してきているということだろう。しかし、他の教科や領域との関連、児童の道徳性が高められているかと設問にはふつうと答える教職員が多い。児童の様子はそれほど大きな変化はないということを表している。
- ・同様に特別活動においても、前期に比べA評価が増えてはいるが、児童の自主自発的な運営について「ふつう」と答える教職員が8人と多い。学級活動の取り組み方に工夫が必要である。

(改善点)

- ・ 道徳については、話し合う道徳を取り入れ、他の教科や領域と関連させながら、指導するようにしていく。
- ・ 自ら学ぶ意欲を育むため、引き続き校内研究で取り組んでいる「ファシリテーション」の授業を行っていく。
- ・ 特別活動については、児童会や各学級で自発的に取り組めるきっかけを作っていく。

評価項目	評価		
	A	B	C
4. 学級経営・生徒指導			
① 児童との心のふれあいを深め、豊かな人間関係を築く学級づくりに取り組めたか。	19	2	0
② 職員が共通理解をもち生徒指導を推進しているか。	20	4	0
③ 支援委員会を中心とした支援は適切に行われたか。	19	3	1

(考察)

- ・ 学級づくりや生徒指導の項目は、前期に比べA評価が増えている。共通理解をもち生活指導にあたっていると考える教職員が多い。
- ・ 支援委員会を中心とした支援については、前期とほぼ同じである。ただC評価をつける教職員もいた。

(改善策)・ 授業時間内での教科指導と生徒指導の両面からの授業づくりを行っていく。

- ・ 気になる子への対応は担任だけでなく、学校全体による「チーム」で担っていく必要がある。そのための情報交換の時間が取れるように、会議のスリム化を進めていく。課題のある児童に対して全職員が主体的に関わる意識作りを進めていく。

評価項目	評価		
	A	B	C
5. 家庭・地域社会との連携			
① 授業参観・懇談会は適切だったか。(回数・内容・出席率)	23	1	0
② P T A 活動は目標達成のため計画的に展開されているか。	22	2	0
③ 児童の登下校時において安全が確保されているか。	19	5	0
④ 学校応援団を有効に活用できたか。	21	2	1

(意見) 学校開放日の時程の改善を。一日開催では、教師の負担、子供のプレッシャーが大きい。午前中開催または、3～6校時の開催にしてほしい。

- ・ 教科の補助(理科の実験)花壇作りなどボランティアで協力してくれる方が増えてほしい。
- ・ 家庭科のミシンのお手伝いをしていただき大変ありがたかった。

(考察)

- ・ 授業参観・懇談会は適切であったかと考える教職員がほぼ全員である。
- ・ P T A 活動は計画的に展開されていると考える教職員が多い。
- ・ 児童の登下校についてもA評価が4ポイント増えている。
- ・ 学校応援団の活用については、ほぼ全員がよいと答えている。

(改善点)

- ・意見にもあるようにふれあい道徳を学校開放日と同日に行う。
- ・行事については、来年度から外国語科の先行実施があるため、見直しを行う。
- ・集団登校指導・下校指導をさらに徹底していく。
- ・学校応援団については、呼びかけを多く行い、協力者を増やしていく。

評価項目	評価		
	A	B	C
6. その他			
① 子供たちは、あいさつができていたか。	5	18	1
② 給食中のすごし方やマナーに問題はないか。	6	16	0
③ 清掃指導にしっかり取り組めたか。	11	12	0
④ 読書意欲を高めるような指導ができていたか。	15	9	0
⑤ 保健指導がしっかりできていたか。	15	8	0

(意見) あいさつボランティアに興味を示し、意欲的に取り組む子が増え、とてもよい取り組みだった。

- ・インフルエンザが流行したが、休み時間ごとの手洗い・うがい・消毒・換気等指導を行っていた。

(考察)

- ・清掃や読書意欲を高める指導・保健指導についてはA評価が増え、改善の傾向がみられる。
- ・あいさつは、児童会の取組と教職員の指導を連動させながら学校全体で継続して行っていたが、評価については前期とほぼ同じであった。子供のアンケートは少し数値が上がっていたことを考えると、あいさつは行うが、子供が自発的にあいさつを行うというレベルには達していないと判断する教員が多いと考えられる。
- ・給食についても前期とほぼ同じ結果であった。給食主任を中心に各学級で給食指導を継続的に取り組めるよう計画を立てていくとしたが、取組が徹底できなかったのではないかな。

(改善点)

- ・あいさつについては、児童会の取組と教職員の指導を連動させながら来年度も学校全体で継続して行っていく。
- ・マナーについては、全校で指導する機会を作っていく。給食主任を中心に各学級で給食指導に取り組めるよう計画を立てていく。
- ・清掃について子どものやる気を促すような働きかけを行う。